

## 分度器を使わない磁北線の引き方

用意するもの)

50cm以上の定規、赤ボールペン、パソコンの関数電卓

### 手順) (平成17年以前の余白の大きな地図の場合)

(1) 地図の右側に書かれている、磁針方位は西偏約 $7^\circ$  (与瀬は $7^\circ$  北海道はもっと大きい。)

なお、西偏 $6^\circ 50''$  など、秒の単位がある場合は、 $50 \div 60$  を計算しておくこと。

(2) (地図の縦の長さ)  $\times$   $\tan 7^\circ$  を関数電卓で計算。

地図の縦の長さは、右側の「行政区画」を参照。与瀬では36.98cm。

スタート→すべてのプログラム→アクセサリ→電卓を起動。



表示メニューから「関数電卓」を選択。



「10進」と「Deg」にチェックが入っているのを確認してから、数字キーの「7」をクリック。



「tan」をクリックすると、 $\tan 7^\circ$ が計算され、0.12278...が表示されている。



「\*(掛ける)」をクリック。(表示は何も変わらない)



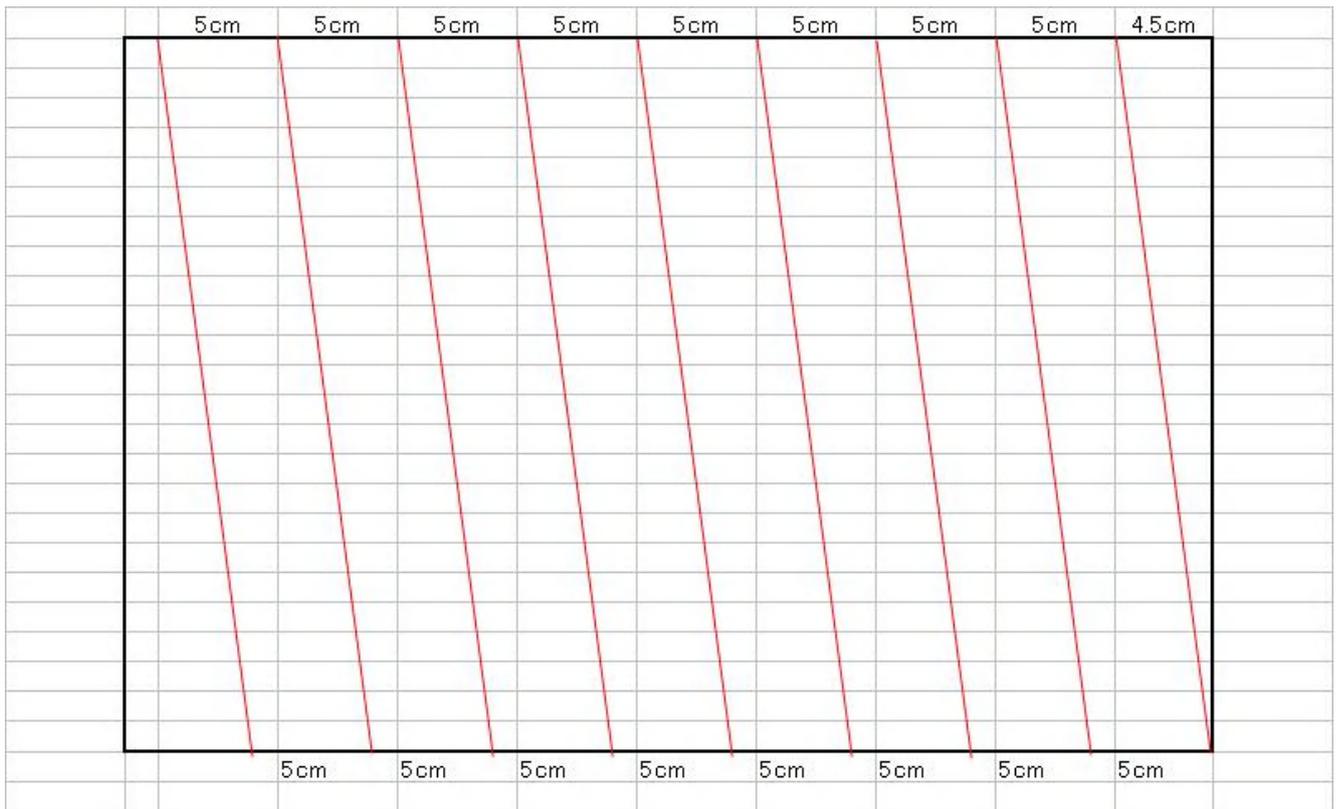
「3」「6」「.」「9」「8」をクリック。(表示は、36.98)



「=」をクリックすると、 $\tan 7 \times 36.98$  の計算結果の 4.54...が表示される。

(3) 地図の右上隅から左に、「4.5cm」に印を付け、そこで、右下角を直線で結ぶ。(赤ボールペンで引く)

(4) 今、引いた線から、5cm 間隔位で、平行に線を引く。



## 手順 2) (平成 17 年以降の余白の小さな地図の場合)

(1) 地図の右側に書かれている、磁針方位は西偏約  $6^{\circ} 50''$  (笹子は  $6^{\circ} 50''$ )

(地図の縦の長さ)  $\times \tan 6$  度 50 秒 を関数電卓で計算。

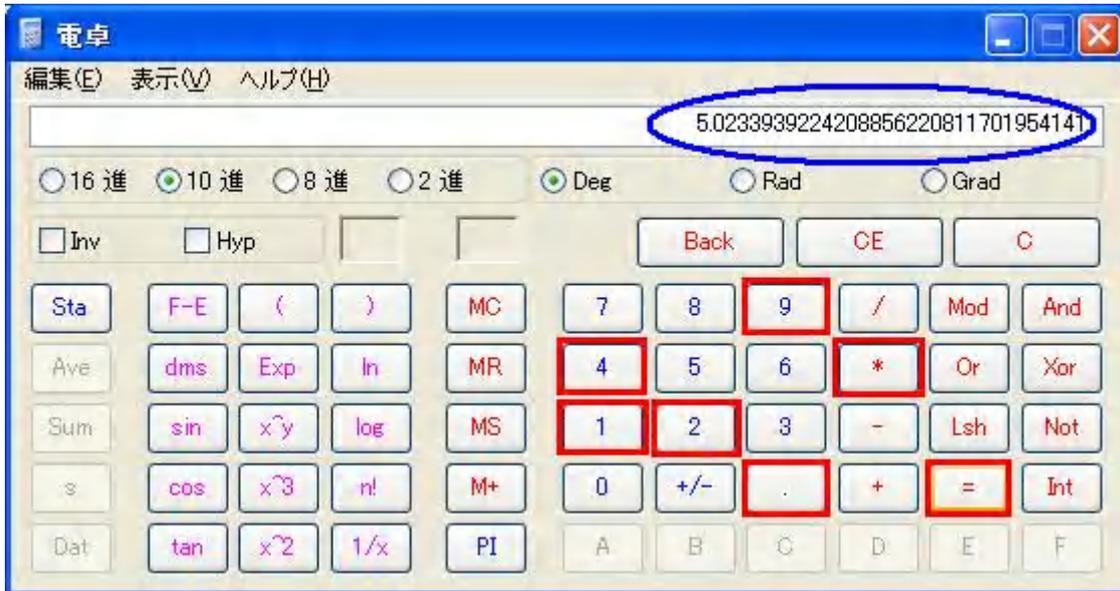
地図の縦の長さは、右側の「行政区画」を参照。平成 19 年発行の笹子では 41.92cm。

スタート→すべてのプログラム→アクセサリ→電卓を起動。



表示メニューから「関数電卓」を選択。

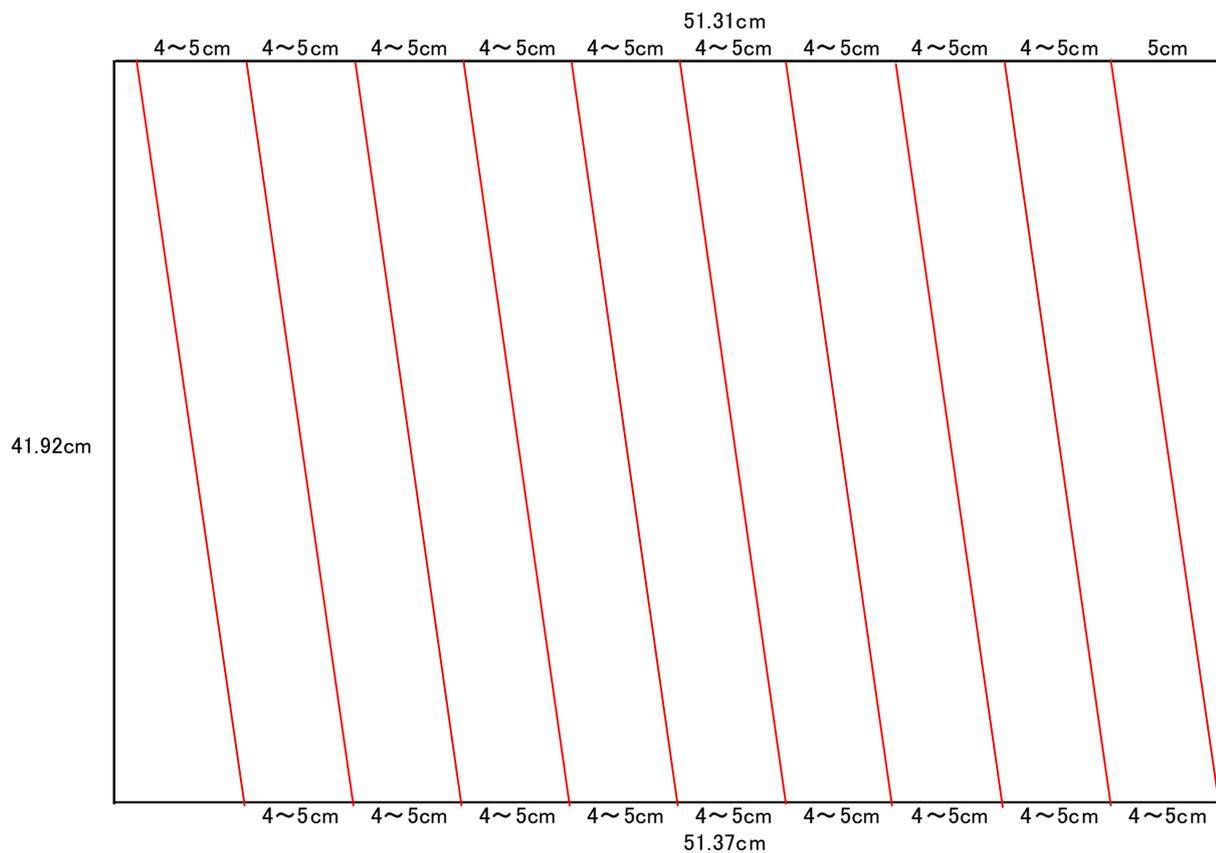




\*、4 1. 9 2、= をクリックして、答えが 5.02 cm と表示される。

地図の右上から 5cm(≒5.02cm)に印を付け、そこから 4cm または 5cm 間隔で印を付ける。

地図の下辺は、右下から、4cm または 5cm 間隔で印を付け、上辺の印と 50cm の定規で平行線を引く。



この余白の少ない地図を隣接地図と同じ経線で折るには、薄い青色の▲マークで折れば良い。